



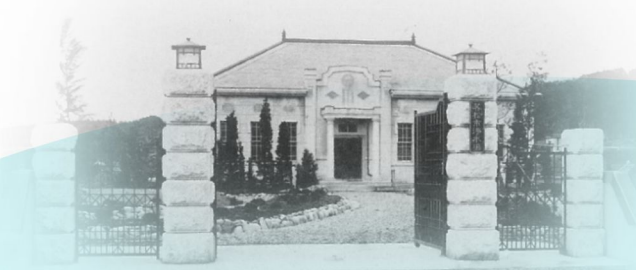
第57回水道週間 全国作品展
標語の部 特選...全国簡易水道協議会会長賞
「じゃ口から 安心とどけ 未来まで」
小林由実さん(会津若松市立行仁小学校 5年)

会津若松市水道事業ビジョン

安全な水の安定供給で 暮らしの未来を支え続ける水道

～ 蛇口から 安心とどけ 未来まで ～

会津若松市水道部
〒965-0064 福島県会津若松市神指町大字黒川字石上 33 番地の2
電 話 0242-22-6073
F A X 0242-22-6173
メー ル suidou@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp
U R L <http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>



概要版

会津若松市水道事業ビジョン

安全な水の安定供給で

暮らしの未来を支え続ける水道

～ 蛇口から 安心とどけ 未来まで ～



平成28年4月
会津若松市水道部

会津若松市水道事業ビジョンの策定にあたって

わたしたちの水道は、昭和4年4月に給水を開始し、幾度の拡張事業や事業統合を経て、現在、給水人口121,557人、一日平均給水量43,360m³/日、水道普及率96.5%（平成27年3月末現在）となっています。しかしながら本市の人口は、高齢化社会の進行により減少が見込まれ将来の予測では平成37年度時点で給水人口107,604人、一日平均給水量37,942m³/日になるものと推計されました。一方で、わたしたちが将来にわたって、これからも安心しておいしい水を使い続けるためには、水道事業経営の健全化を図りつつ、今後老朽化していく水道施設を更新しながら水を送り続け、さらには大規模な地震などの災害においても蛇口から水が出てくる水道を目指すことが大切です。このようなことから、水道事業経営の現状と将来の見通しを分析・評価し、50年後さらには100年後においても、安全・安心なわたしたちの水道を目指すため、平成28年度から平成37年度までの今後10年間の基本理念と基本方針、そして施策を定めた「会津若松市水道事業ビジョン」を作成しました。

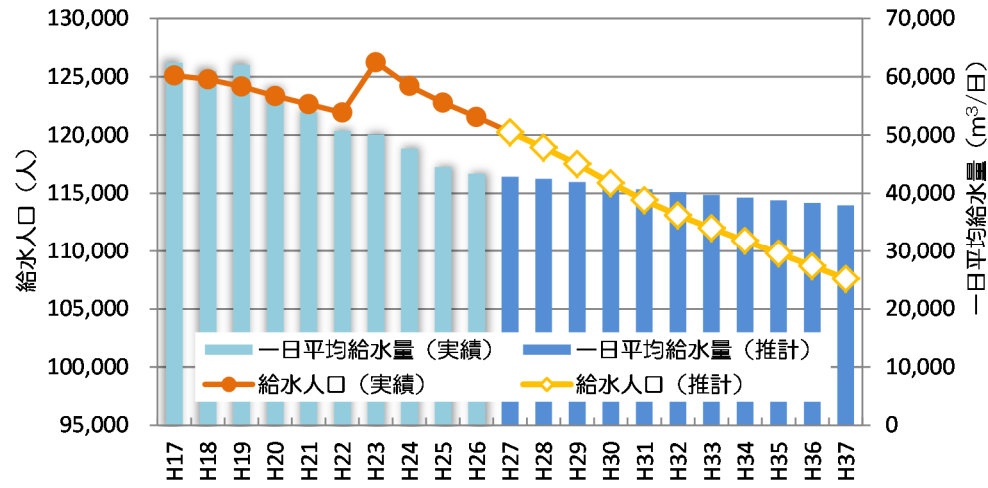


図1 将来の給水人口等の推計

新水道事業ビジョンについて

新水道事業ビジョンの体系

新水道事業ビジョンは本市水道事業の指針として、人口及び水量減少の中、水道事業を未来にむかって持続していくために将来の本市水道のあるべき姿を踏まえた将来像（基本理念）や基本方針等を明確にしておく必要があり、図2に示す体系概念により新水道事業ビジョンが作られています。平成28年度から10年間を計画期間とする新水道事業ビジョンでの基本方針、施策等を策定することで事業に反映し、本市水道事業の将来像を目指していきます。

新水道事業ビジョンの基本理念

本市水道事業は給水開始以降、長年にわたり、安全・安心な水道水の安定供給に努めてきました。このことについては将来にわたっても不変であり、恒久的に水道事業を持続させなければなりません。そのために、市民の視点から水道事業を見つめ、会津若松市の水道を恒久的なものとするために質の高いサービスを提供し続けることが大切と考えています。そのようなことから会津若松市水道事業は

「安全な水の安定供給で 暮らしの未来を支え続ける水道」
～蛇口から 安心とどけ 未来まで～

を基本理念として掲げ、その将来像の実現に向けて努めていきます。

新水道事業ビジョンの基本方針

基本理念の実現に向けては、国の新水道ビジョンでうたわれている「安全」、「強靱」、「持続」の3つの視点を新水道事業ビジョンの基本方針に設定し、施策の推進を図っていきます。

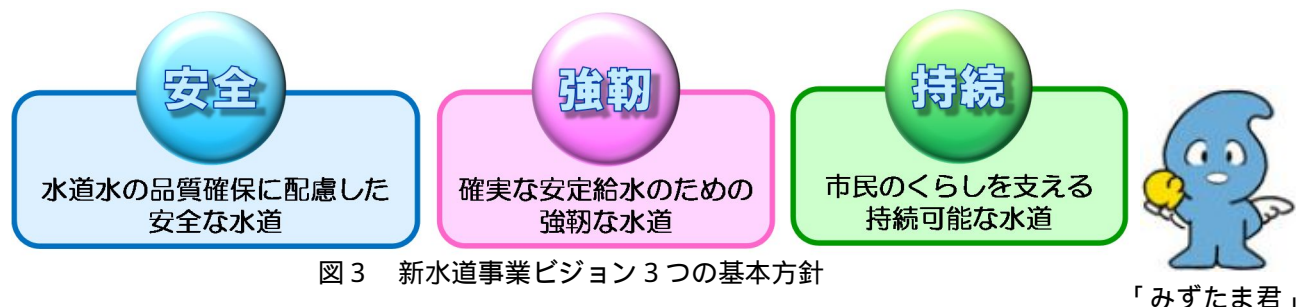


図3 新水道事業ビジョン3つの基本方針

施策目標の概要について

3つの基本方針達成のため、具体化したこれからの10年間で10個の施策目標を掲げました。それらの目標を具体的な事業として計画して実施することで、将来像を目指していくことになります。

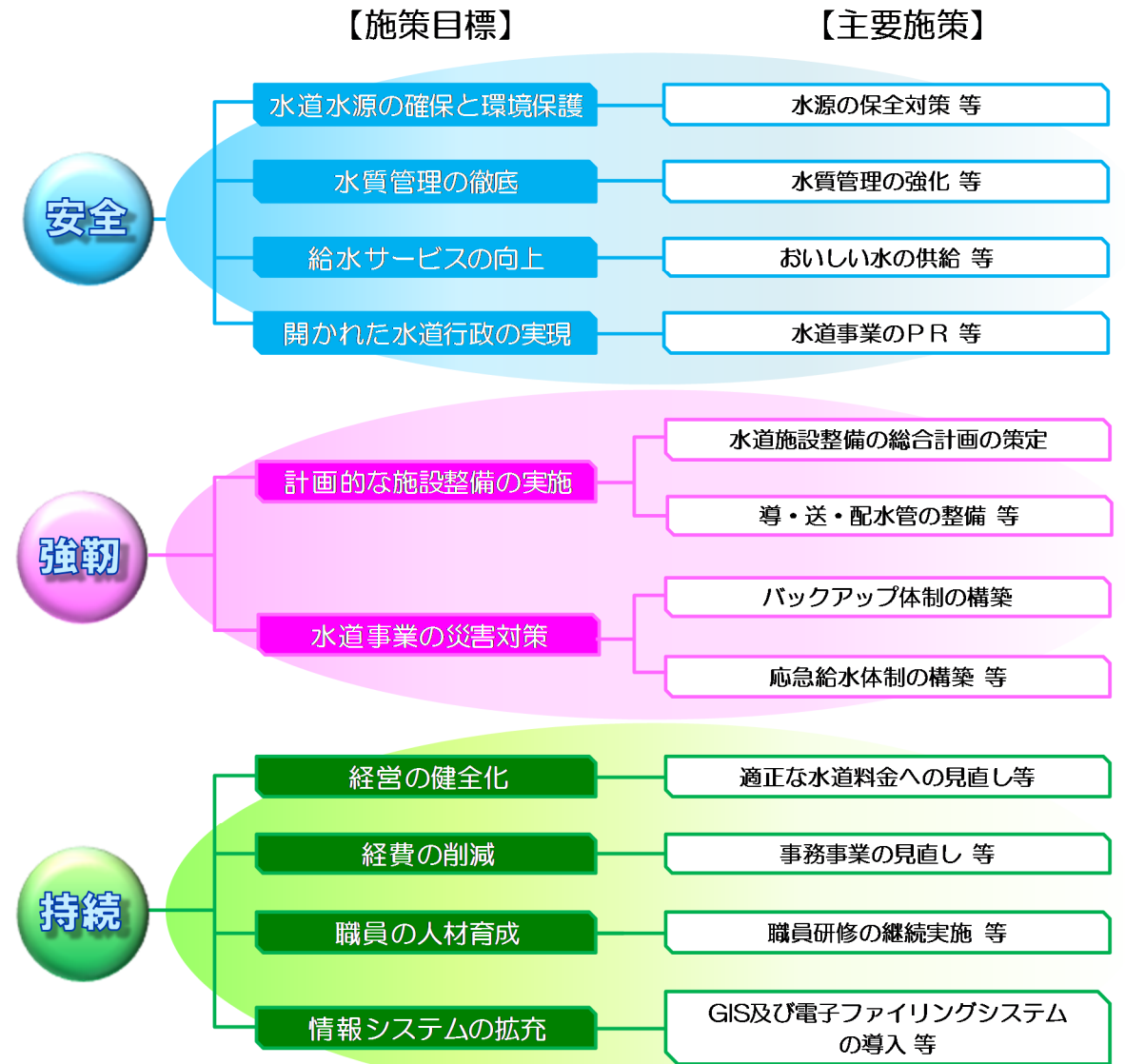


図4 新水道事業ビジョンの施策体系概要

フォローアップ

このビジョン実施にあたっては、市の総合計画等との連携を図った人口や給水量の将来見通しの見直しに加えて、行政改革やさらなる経営効率化への要求など事業運営に影響を及ぼすような要因も考えられ、事業の途中段階における計画の見直しは不可欠なものとなります。

事業の進捗管理においては、その情勢変化に加えて、進捗状況とあわせて効果を把握しておくことも重要であり、効果の把握には「水道事業ガイドライン（公益社団法人 日本水道協会）」の業務指標などの活用を図っていきます。

新水道事業ビジョンでは、業務指標の活用などにより、PDCAマネジメントサイクルによって、当初計画の目標や事業推進における問題点、事業の有効性などを確認しながら事業の確実な遂行を目指します。



図5 PDCAサイクルによる見直し

目指せ！100年水道！



「若水博士」